

平成23年3月

木下直樹 学位論文審査要旨

主査	清水英治
副主査	池口正英
同	林一彦

主論文

肺癌における新たな腫瘍マーカーとしての血清中 soluble UL16-binding protein 2 (sULBP2) の検討

(著者：木下直樹、千酌浩樹)

平成23年 米子医学雑誌 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺癌xenograftマウスモデルを用いて肺癌組織でのULBP2発現量と血清中sULBP2濃度の関係を検討し、肺癌患者と良性呼吸器疾患患者血清中sULBP2濃度の比較、肺癌治療前後の血清中sULBP2濃度の比較、非小細胞肺癌患者における予後の検討を行ったものである。その結果、血清中sULBP2濃度は肺癌組織でのULBP2発現量や組織量を反映しており、治療効果や予後予測に有用であることが明らかとなった。本論文の内容は、血清中sULBP2が肺癌の腫瘍マーカーとなり得ることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認められる。